

公益財団法人 檉の芽会 御中

## 令和6年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	① 作成日	令和7年5月 日	
② 法人・団体名	特定非営利活動法人 ユースコミュニティ		
③ 団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	〒143-0024 東京都大田区中央8-22-13		
③ 責任者氏名	濱住 邦彦	(役職名等)	代表理事
④ 担当者氏名	濱住 邦彦	(役職名等)	代表理事

【奨学活動の概要】	⑥助成交付決定番号	R06-029	⑦助成金額	100万円	⑧申請カテゴリー	D
⑨奨学活動名	コロナ禍で停滞していた学習支援事業の再構築					
⑩主な実施場所名・ 及びその住所	学習支援の会場→大田区内5拠点（生協、民間会議室、カフェ、公民館等） ワークショップ研修やチラシ・リーフレット作成→公民館および団体事務所					

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

この数年のコロナ禍によって、様々な制限を余儀なくされた学習支援事業（団体の自主事業）について、コロナ禍以前の状態に戻すべく取り組んだ。活動概要とアウトカムは以下のとおりである。

- ・大田区内5拠点（7クラス）の教室（完全会場型）を毎週定期開催
- ・前年度に集結した支援者（ボランティア）の育成と定着を目指した組織力強化の取り組み

中間支援組織 CR ファクトリーと上智大学コミュニティキャピタル研究会の外部診断を実施。全てのボランティアスタッフへアンケート調査を7月に行い127名が回答した。それを受けて11月17日に上記団体の専門家を講師に「コミュニティキャピタル診断」とワークショップを行い25人が参加。また3月30日にも団体報告会を行い（28人参加）、組織の現状分析と今後の改善策を確認して意思統一した。

- ・ファンドレイジングの強化

既存の支援者だけでなく、新たな支援者層を開拓するため、ファンドレイジングの取り組みを強化した。具体的には、地元地域のシニア層をターゲットに、インターネットやクレジットカードを使用せずに寄付できる郵便振替付きのチラシと賛助会促進リーフレットを2000部作成。主な活用方法として、以前ボランティアとして協力してくれたボランティアOBスタッフへの郵送の他、地域の学習会や集まりで配布を行った。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A:人)	平均時間 (B:時間)	活動量 (A×B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	1584	2	3168	延べ人数：週平均参加人数44×週4回×9カ月
高校生等	1080	2	2160	延べ人数：週平均参加人数30×週4回×9カ月
大学生等	26	3.5	91	延べ人数：平均参加人数13×研修回数2
学習支援員等	28	3.5	98	延べ人数：平均参加人数14×研修回数2
その他	20	3	60	学生インターン 延べ人数:人数2×実習回数10
合 計			5577	

# 令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

## 奨学活動名：コロナ禍で停滞していた学習支援事業の再構築

法人・団体名：特定非営利活動法人ユースコミュニティー

作成者 氏名：濱住 邦彦

### 1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

#### ・大田区内 5 拠点（7 クラス）の教室（完全会場型）を毎週定期開催

当初の予定通り、以下の教室で定期開催することができた。

月曜：パルシステム東京大田センター（大田区仲池上 1-31-1）

火曜：テラッコ池上（大田区池上 6-2-19）

水曜・土曜：カフェヴェルデ（大田区中央 1-15-1）

土曜（午前・午後）：ふれあい蓮沼（大田区西蒲田 3-19-1）

日曜：MICS おおた（大田区蒲田 5-13-26）

支援した子ども達の属性については、24 年度は中学生の保護者からの問い合わせが多く寄せられ、中学生 45 人、高校生 30 人という結果になった。特に中学 1 年生の入会者が多かった。入会した中学 1 年生のほとんどが学校の授業についていけなくなっており、小学校で取得すべき基礎が抜け落ち、学校の宿題にさえ手を付けられない状況であった。しかしながら、中学 1 年生という学年からか、学習意欲や将来への関心も薄く、学習へ促すのにスタッフが苦勞する場面も目立っていた。また不登校になりかけている子どもも少なくなかった。そこで、例年よりも保護者との相談を密にしながら、子ども達の支援に丁寧に取り組んだ。

#### ・前年度に集結した支援者（ボランティア）の育成と定着を目指した組織力強化の取り組み

中間支援組織 CR ファクトリーと上智大学コミュニティキャピタル研究会の外部診断を 7 月に開始。全てのボランティアスタッフへアンケート調査を行い 127 名が回答した。8 月には一回目の診断結果が出され、それに基づいてまずは団体の役員等、主要メンバーだけで診断結果のレクチャーを受けた。診断の 3 本柱である「ミッション・ビジョンの共有」、「自己有用感」、「居心地の良さ」について、過去の診断結果よりもすべて上昇がみられた。また他団体の平均と比較して出される偏差値については約 54 という結果になった。この結果は一見すると平均よりやや上との評価として認識されがちであるが、実質的には非常に高い数値結果であるという判定を受けた。というのは、多くの団体では回答者が 20 名前後ぐらいの平均である。つまりそれだけ団体のコアメンバーからの回答が多くなることから、比較的高い数字が出されることが多い。一方私たちは、127 名という多くのボランティアスタッフからの回答の平均がこの数値であるということは、当法人のボランティアスタッフが他団体のコアメンバー並みの意識の高さを持っていることが推察できるとの診断結果を得ることができた。

それを受けて 11 月 17 日（日）に上記団体の専門家を講師に「コミュニティーキャピタル診断」のワークショップを行い、25 人が参加した（※詳細は別紙：団体かわらばんニュースを参照）。また 3 月 30 日にも団体報告会を行い 28 人参加。組織の現状分析と今後の改善策を確認した。

#### ・ファンドレイジングの強化

新たな支援者層を開拓するため、ファンドレイジングの取り組みを強化した。

ファンドレイジング強化にあたり、新たな支援者の発掘をするための広報チラシ等の製作をすすめ、協力してくれる学生のインターン生を内部から募り、結果 2 名の大学生が参画した。

さらに実習については、デザイン会社の方がプロボノとして、寄付チラシの制作監修をしていただき、

制作ソフト（CANVA）の使い方から原案と進捗状況の共有を行い、随時アドバイスを受けながら、寄付チラシと賛助会加入促進リーフレットを製作することができた。地元地域のシニア層をターゲットに、インターネットやクレジットカードを使用せずに寄付できる郵便振替付きのチラシとして 2000 部製作。主な活用方法として、以前ボランティアとして協力してくれたボランティア OB スタッフや友好団体への送付、地域学習会等で配布を行った。特に 24 年度は、生協（パルシステム東京）さんからの新たな連携企画が提案され、生協の会員向け学習会を 3 月 23 日（日）に開催した。生活困窮家庭の子どもと保護者の課題を伝え、参加者に関心を持ってもらうとともに、団体支援のきっかけづくりをすることができた。

## 2. 実施した奨学活動の詳細

### 普段の教室風景 毎回 10 数名の中高生が参加



### 生協と連携した学習会の様子 2025.3.23



## コミュニティキャピタル診断 診断結果レポート

2024年08月07日

団体名	ユースコミュニティ
担当者名	濱住邦彦様
回答者数	127名
実施期間	2024年07月01日～2024年07月15日

第1因子 「理念共感と貢献意欲」		第2因子 「自己有用感」		第3因子 「居心地の良さ」	
第1の因子は、団体の活動理念への共感とその活動への貢献意欲に関するものです。同じ集団に属する人間として、仲間と共通の目的や目標を共有し、共にそれを目指そうと思えること。「この団体を自分も一緒に担っていききたい」「とことんがんばりたい」と思える感覚が第1の因子です。		第2の因子は、団体の中で自分が役に立っている、必要とされているという感覚です。ただ団体の活動に参加するだけでなく、活動・関わりを通して「役に立っている」「必要とされている」と感じられること。欠かせない存在であり、自分は重要であると思える感覚が第2の因子です。		第3の因子は、居場所としての団体の状態です。それも物理的に快適であるということではなく、「人間関係が良好である」「メンバーと一緒に活動することが楽しい」「仲間といると落ち着く」と感じられること。これらによる「居心地の良さ」が第3の因子です。	
<b>8.5</b>		<b>6.33</b>		<b>8.16</b>	
一般偏差値	53.7	一般偏差値	54.5	一般偏差値	54
前回得点	8.02	前回得点	5.62	前回得点	7.37
前回診断との差	0.48	前回診断との差	0.71	前回診断との差	0.79

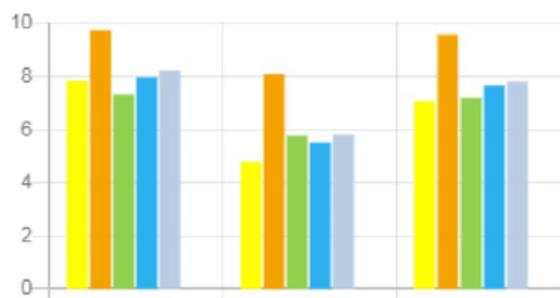
団体内での平均活動時間による  
因子得点平均値の比較



理念共感と貢献意欲      自己有用感      居心地の良さ

	理念共感と 貢献意欲	自己有 用感	居心地の 良さ
● 10時間未満	7.79	5.33	7.30
● 10時間以上～30時間未満	9.32	7.43	9.16
● 30時間以上～50時間未満	非表示	非表示	非表示
● 50時間以上～100時間未満	非表示	非表示	非表示
● 100時間以上	非表示	非表示	非表示
● 無回答	非表示	非表示	非表示

団体内での活動歴による  
因子得点平均値の比較



理念共感と貢献意欲      自己有用感      居心地の良さ

	理念共感と 貢献意欲	自己有 用感	居心地の 良さ
● 3ヶ月未満	7.86	4.80	7.09
● 3ヶ月以上～6ヶ月未満	9.71	8.11	9.54
● 6ヶ月以上～1年未満	7.33	5.78	7.22
● 1年以上～3年未満	7.98	5.53	7.67
● 3年以上	8.23	5.81	7.83
● 無回答	非表示	非表示	非表示

### 3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

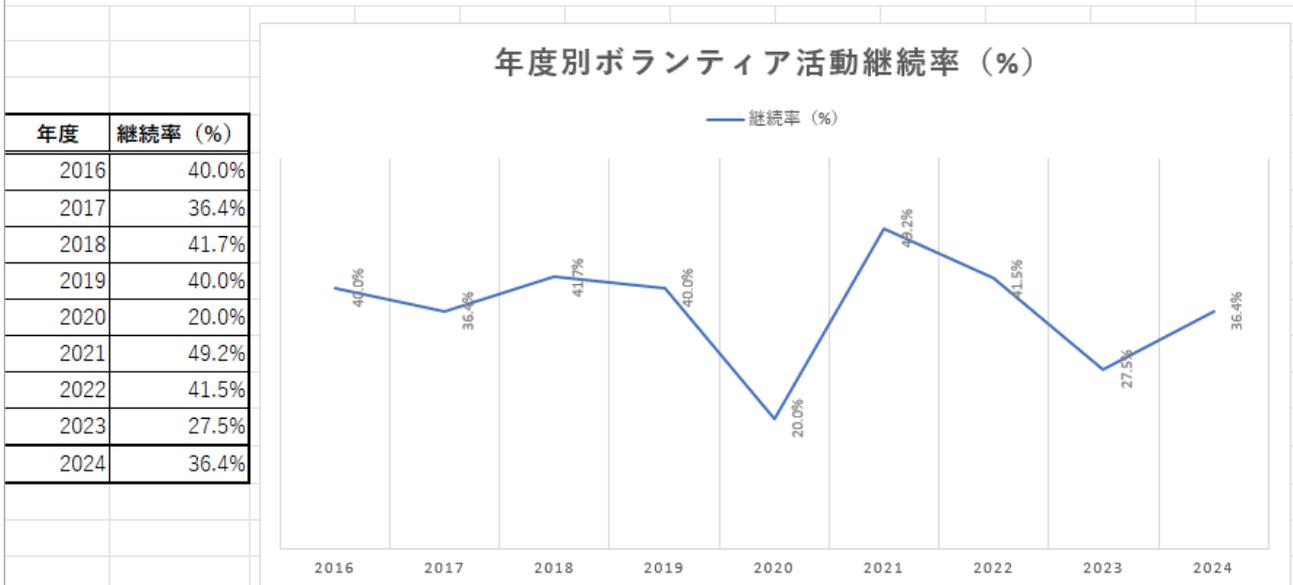
ボランティアスタッフの定着を図るため、組織診断とワークショップを取り組んだ。11月17日の全体研修会以外にも、11~12月は各教室で学習開始前にミーティングをする時間を取り、診断結果を確認しながら、振り返りと気づきを得る時間（ミニワークショップをする時間）を別途設けた。

ワークショップでは、団体が課題に感じていることをテーマとして取りあげ、参加者にグループワークで解決策を提示してもらった。特に支援対象者である子ども達の心理にフォーカスし、ボランティアスタッフが連絡や挨拶無しに活動をフェードアウトした場合、子ども達はどのように感じると思うか？等をテーマに話し合った。

組織全体の数値化・見える化を通じ、到達と課題を把握し、さらにひとり一人が目の前に置かれている状況について振り返ることは、一人一人の行動が全体を創り上げていることがあらためてボランティアスタッフに再認識され、活動定着に繋がったと考えている。

※昨年度の継続率は27.5%だったが、24年度は36.4%に上昇した。

## 年度別ボランティアスタッフ継続率



一方、新たな寄付者の獲得については、チラシ・リーフレット等の取り組みをしたものの、24年度は期待した効果を出すことができなかった。しかしながら、制作したチラシ・リーフレットを今後も最大限活用し、粘り強く新たな支援者の獲得につなげていきたい。分析する中で見えてきた課題としては、今まで一度も寄付をしたことのない層に対し、行動を促す仕掛け作りが必要であることが分かった。次年度はそうした面を工夫しながら課題を克服していきたいと考えている。

### 制作した寄付チラシ

The collage includes several key documents:

- 10th Anniversary Poster:** Celebrating 10 years of activity, highlighting the goal of recruiting 100 members.
- Recruitment Flyer:** A call to action for 100 new members, emphasizing the goal of reaching 100 members by the next 10-year mark.
- Room Rental Point Flyer:** A flyer titled '第3の居場所を届ける' (Delivering the 3rd place), promoting a 'free' rental point for members.
- Informational Brochures:** Various documents detailing the organization's mission, support services for children and families, and contact information.

## 制作したリーフレット（一部抜粋）

### 大きな支援を生み出すため、あなたの賛同を

年 3,000 円で協力できる 賛助会員を募集しています



経済的支援  
—子どもたちの暮らしを支える—



社会的支援  
—子どもたちの声を社会に届ける—

日本のひとり親家庭の状況は、そのほとんどが就業しているにもかかわらず、48.1%が困難な状態にあるという統計があります。これは OECD 加盟 35 か国で一番高い数字です。さらに大学生の約半分以上が、返済義務のある奨学金を借りながら通学している現状があります。

こうした状況を少しでも改善するために、私たちはまず団体内部からの賛同者を得て、その信頼を元に、より大きな支援を生み出すため、賛助会の加入促進を取り組んでいます。賛同をさらに広げていき、子ども達への直接的な支援、学生の支援、さらにはイベントや学習会等を通じ、支援者の交流についても深めています。

「あなたの賛同が、大きな支援を生み出します」。是非ユースコミュニティの活動を賛助会員という形で応援してください。

### あなたの賛同で実現できること

無料塾が拡大し、子どもと保護者を笑顔にできます

●賛助会員の人数が、企業が寄付や助成を決定する際の大きな判断材料になっています

現在私たちは、行政事業の他に、NPO の本来の取り組みとして、大田区内に「自由塾」という学習教室を運営しています。自由塾では多くのボランティアさんに支えられていますが、どんなに切り詰めてもかかる経費として、スタッフの交通費、教室の会場費、教材費、管理費等があります。そうした費用すべてを賛助会の会費だけではとても賄えきれず、自由塾を利用する家庭に一定の利用料負担（月謝）をお願いしてきました。しかしながら、年々賛同者が増えてきたことによって、企業や個人からの寄付をいただく機会が増え、現在 3 つの拠点が完全無料塾となり、さらに他の拠点についても利用料の減免を進めることができました。物価高の昨今、子どもと保護者から大変喜ばれています。



### ボランティアリーダーのコメント



大学生 田口さん

高校生の時からボランティアとして参加し、現在は小学生クラスのボランティアリーダーをしています。私自身も賛助会に入っていますが、協力してくれる皆さまのおかげで、寄付や助成を毎年いただくことができ、おかげさまで完全無料の教室になりました。子ども達の頑張る力に驚かされたり、困難な状況に涙を流めたり、様々な気持ちですが、日々子どもたちと楽しく過ごしています...!

●寄付や助成をいただいた主な企業  
ベネッセ子ども基金 大塚商会 東京スター銀行 大和証券

### あなたの賛同で実現できること

活動場所の提供、教材や文具、お菓子の寄贈など、子どもの直接支援に繋がっています

●賛助会員の人数が、企業が寄贈や協力先を選定する際の評価点になっています



中学生向け単語帳ドリルを寄贈



インクジェットプリンターを寄贈



卒業イベントの会食にピザを寄贈



教室でクリスマスイベントを開催



英検の教材を寄贈



ノートセットを寄贈



たくさんのお菓子を寄贈

●寄付や助成をいただいた主な企業や団体  
ドミノピザ ヤマト運輸 学研プラス ロータークラブ ココ壱番屋 Google

つに PST という条件（要件）があり、毎年平均 100 名以上の賛助会員の協力を得ることにより、この条件をクリアすることができるため、認定 NPO 法人へのステップアップの道が開けることになります。

Q5) 賛助会に協力したい場合、手続きはどうすればいいですか？

A3) このパンフレットの末尾に専用の URL を付けております。そこからクレジットカードを使用して手続きすることができます。クレジットカード以外の方法によるご協力については、事務局にご相談ください。

賛助会の入会はこちらから

入会ボタンをクリックで↓に飛ぶ

入会ボタン

<https://syncable.biz/associate/youthcommunity/donate/membership>



NPO 法人ユースコミュニティ  
〒143-0024  
東京都大田区中央 8-22-13  
TEL : 03-6312-9360

Supported by



©2025 Youth Community

# 活動者会議かわら版



奥村がお届けいたします！



NPO法人ユースコミュニティの活動に参加している学習サポーターのみなさんやボランティアさん、常勤スタッフが集まり、団体活動の成熟度を示すコミュニティ診断とレクチャーを外部機関の方より受けました。

団体の事業は①自主事業「自由塾」、②委託事業「大田区子どもの学習支援教室」の2つに大きく分かれ、さらにその中で複数の教室が開催されています。今回のテーマは「参加者の交流と協働」ということで、診断結果を通じた学びと日頃の教室の振り返りを普段の教室メンバーグループ中心に行っています。

後半のグループワークでは、自分自身が話したい・聞きたいテーマに分かれて色々な教室スタッフとの交流も図りました。

## 開催概要

- 場所 新井宿特別出張所
- 日時 11月17日(日)  
10時30分～13時00分



## 参加者

- 学習サポーター  
ボランティア 25名
- 常勤スタッフ 6名

## 当日のスケジュール

- 10時30分 開会
- 10時35分 キャピタル診断
- 講師による解説ワーク
- 12時10分 グループワーク



## 診断解説 ワークショップ

コミュニティキャピタル診断専門講師よりレクチャーを受けました！

### 診断の結果

皆様にご回答いただきましたアンケートの診断結果について、講師の方より以下のように講評いただきました。

「**回答数が150名**を超える中で、一般的な平均値をいずれの項目も上回っているということが珍しく、**優れたスタッフさん方**に恵まれている団体であることがわかります。」

通常は団体コアメンバーのみの15～20名程度の記入が多いらしいです。日頃から皆様のご協力とご献身をいただきまして本当にありがとうございます！

	理念共感と貢献意欲	自己有用感	居心地の良さ
	理念共感と 貢献意欲	自己有用感	居心地の良さ
● 東糀谷教室（火曜日）	9.92	8.33	9.90
● 西蒲田教室（火曜日&）	7.96	5.21	7.38
● 西蒲田教室（水曜日&）	8.44	6.19	7.94
● 東糀谷教室（木曜日）	8.70	5.80	7.20
● 洗足池教室（火曜日）	8.70	6.20	7.30
● 池上教室（テラッコ教）	7.67	5.08	7.17
● 大森カフェヴェルデ教	8.50	5.20	7.60
● はすめま教室（ふれあ）	7.68	6.11	7.64
● 蒲田消費者生活センタ	7.41	4.91	6.36
● 小学生クラス（金・土）	7.36	4.79	7.68



### 第1因子「理念共有と貢献意欲」

団体の理念や人のつながりをもとに、多くの人と共に貢献する意志をもつか、団体の理念に対する共感度とし、**仲間と共に目的**を達成したい、共にそれを目指そうと思えるかを示します。

総合値8.5 一般企業値53.7

### 第2因子「自己有用感」

団体内で自分が役に立っているという感覚です。**ただの仲間の一員に留まらず**「自分でできること」「自分が求められていること」で他者とつながれるかどうかを示します。

総合値6.33 一般企業値54.5

### 第3因子「居心地の良さ」

団体に対しての心の安心感を意味します。この因子は特に、**居心地の良さ**を感じられるかどうかに関係します。「周囲が受け入れてくれている」「自分を見守ってくれている」「メンバーに信頼されている」ことが指標となります。

総合値8.16 一般企業値54



理念共感と貢献意欲

自己有用感

居心地の良さ



因子名称	貴団体平均	全サンプル平均	偏差値
第1因子 理念共感と貢献意欲	<u>8.50</u>	7.85	53.7
第2因子 自己有用感	<u>6.33</u>	5.33	54.5
第3因子 居心地の良さ	<u>8.16</u>	7.40	54.0

# グループセッション

①『教室で、ほぼ毎回漢字等、暗記物だけを学習する生徒の支援について考える』

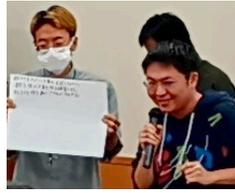
②『ハラスメント予兆リスクを考える（生徒とスタッフ・スタッフ同士）』

③『この活動をやってみて印象に残ったエピソードを紹介し合い、お互いにフィードバックし合う』

④『自分が教室長だったらどういう教室を作るか』

⑤『有償スタッフのOJTについて』

前半のワークショップが**所属教室メンバー同士**であったので、後半のグループセッションは**興味関心あるグループ**で集まり、内容ごとに対話を深めました。



①について

- ・漢字だけをやっていることは**否定しない**。
- ・漢字を使った文章を作る練習させる。
- ・考える力を得るために**アクティビティー**を行う  
来室する生徒たちを否定せず、肯定しながら**学びのステップ**を踏めるようにしていきたいですね。刺激を与える意味でもアクティビティーが有効であることも！

②について

- ・コミュニケーションが取れない
- ・コミュニケーションは**その子を知ることから**
- ・中学生であれば塾にくる**目的**から気づかせる  
そもそもコミュニケーションの不具合から予兆リスクは生まれてきますね。スタッフもまずはその子を知ることから始めていき、生徒もスタッフも**教室での目的意識**を持つことでリスク回避できることもあるかもしれません。



③について

- ・「**楽しい**」大事 ・「**できない**」を言える環境
- ・ミーティングでの会話が**自身の居場所**に！！  
元生徒スタッフさんの話はより説得力もありました。「楽しさ」は、教室にとって改めて大切な要素かもしれません。**スタッフの居場所**になることが生徒の居場所にもなりそうです。

④について

- ・**居場所と学習**→継続的な学習
- ・スタッフと生徒の**マッチング**→スタッフのスキルも
- ・生徒への**学習提案**→投げかけるところまで  
教室は「居場所感」も大切にしながら、**継続的な学習**を行うことができる場としても機能させたい、そんな想いののじむ発表でした。



⑤について

- ・OJT研修チェックリストを**活動歴ごと**に分ける
- ・**定期的**に実施する
- ・サポーター同士や生徒からの**フィードバック**があると良い  
これから入ってくるスタッフのためにも、どのような研修や評価が必要か、スタッフ同士熱く話し合っていました。



## 参加者アンケートより

- 診断を**定期的**に実施するのは良いと思います。結果が見えるので面白く、数値化されて話し合う材料になりました。
- 子どもを含めた**話し合いの場を設けたり、地域イベントや交流会にも参加したい。
- 普段は関わらない他教室のスタッフと議論できて、**多角的**に物事を見られるようになりました。
- 自己有用感と生徒の満足度**の比較が知りたい
- 短時間でテーマとメンバーを理解し、まとめるのは楽しかったです。団体にはもっと**情報を発信**してほしいと願います。

他にも**たくさんのご意見や感想**をいただきました！すべてに目を通し吟味しながら次へと進んでいきたいと思っています。ありがとうございました！（奥村）



編集後記

## 次回開催に向けて

●常勤スタッフ  
山田 瑠璃香

活動者会議に参加された皆様、お疲れ様でした。今回の活動者会議を通じて私が最も印象に残ったのは、「悩みを共有する機会を増やすと、自己有用感が出るかもしれない」という外部講師の言葉です。私はこれを聞いた際に、「確かに、共有する側・される側、双方にとって自己有用感を育むきっかけになるかもなぁ」と感じました。というのも、他者に悩みを共有すると、『自分では気付いていなかったけれど、実は喜ばれていたこと』『実は人の役に立っていたこと』をお互いに知るきっかけになり得るからです。ただ悩みを共有し合うためには、思いを受け止める土壌が必要です。普段から『相談や質問を歓迎する』『他者の思いを尊重する』ことを心がけていきたいですね。

次回は3月に成果報告会の開催を予定しています。今年度の活動の成果だけでなく、課題点や昨年度と比べて変化した点を皆様と共に見つめていきたいと考えております。どうぞご参加のほどお願い申し上げます。



たくさんの方に  
お集まりいただき  
ありがとうございました！  
(山田)

